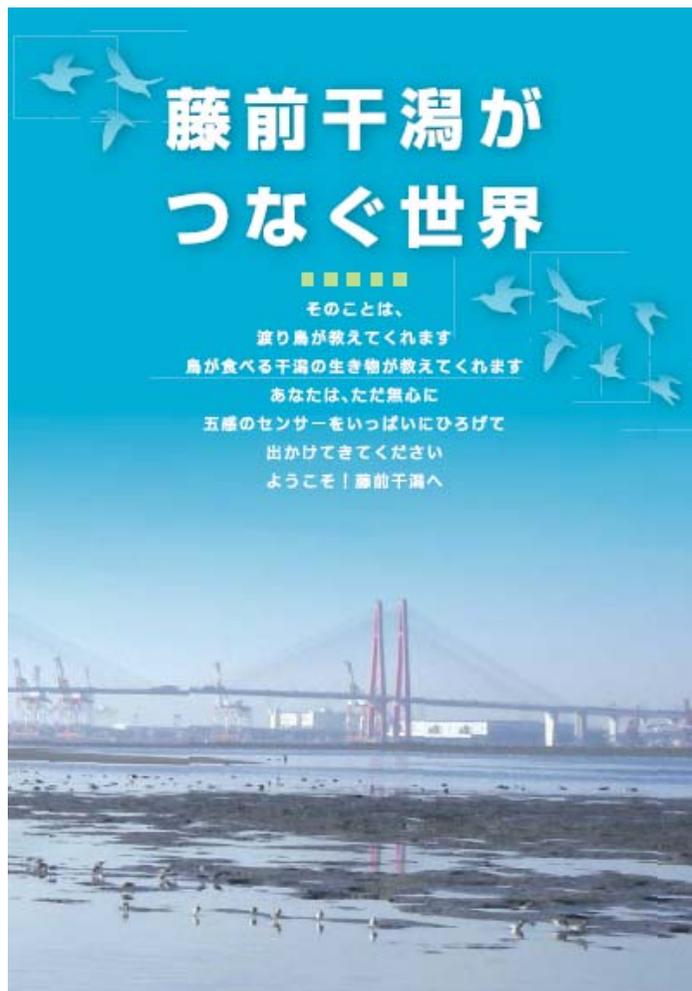


○「藤前干潟がつなく世界」
表紙

見開き



藤前干潟は鳥たちの休息地

藤前干潟は、たくさんの渡り鳥が来る国際的に重要な湿地として、2002年に「ラムサール条約」に登録されました。

渡り鳥の種類はいろいろありますが、藤前干潟に多いのはハマシギやダイシャクシギ、ダイゼンなどのシギ・チドリ類です。ここには春と秋の2回、シギ・チドリ類が多く見られるようになります。そのほか、夏にはコアジサシ、冬にはスズガモやオナガガモなどのカモ類が多く見られます。

これらはすべて季節ごとに移動する「渡り鳥」です。カワウやカルガモ、ミサゴなど、1年を通して見られる鳥も多くなります。

藤前干潟周辺に飛来する渡り鳥

 ● ハマシギ 藤前干潟を代表するシギの仲間。数百年の歴史を持って飛び回る鳥が有名。	 ● ダイシャクシギ 長いくちばしを持つシギの仲間。高気圧の進行をすることで知られる。繁殖は夏だけ。	 ● ダイゼン 湖や沼に広く生息するシギの仲間。夏と冬で羽の色が変わる。繁殖は夏だけ。
 ● オナガガモ 冬羽のとき、羽が長く伸びているのが特徴。オオムシメスで羽が落ちる。繁殖は夏。	 ● コアジサシ 夏は黒い羽、冬は白と黒の羽。海に飛ぶ。冬は魚を食べて生活する。	 ● スズガモ 冬は黒い羽、夏は茶色の羽。二羽以上のペアで生活する。繁殖は夏。

藤前干潟周辺で1年を通じて見られる鳥

 ● カワウ 湖や沼で生活し、葦や川に育つアヒラを育てる。繁殖は鳥の卵を盗む人が増えている。	 ● カルガモ 湖や沼で生活するカモの仲間。オオムシメスに似ているが、羽の色が黒い。	 ● ミサゴ 湖や沼の中間の場所。羽が長い。繁殖は冬から春にかけて。羽の色が黒い。
---	---	--

名古屋・ジロング湿地連携

名古屋市は2007年、オーストラリアのジロング市と、湿地連携を結びました。

ジロング市はオーストラリアの南東部にあり、「スワンベイ干潟」をはじめ多くの湿地がラムサール条約登録地になっています。藤前干潟と同じ渡り鳥のルート上にあるので、冬にジロング市にいた鳥が春には藤前干潟で見られる、ということもあるかもしれません。



ジロングの湿地(コネクト)

以下のアドレスから、最新の名古屋・ジロングの連携のウェブ情報を入手することができます。
名古屋湿地連携ウェブサイト <http://www.kokumet.city.nagoya.jp/>

シギ・チドリ類の東アジア・オーストラリアルート

右の図はシギやチドリがどのように季節ごとの移動をするかを示したものです。夏はシベリアやアラスカ、冬は東南アジアやオーストラリアまで移動するものもいます。このような移動ルートがわかってきたのは最近のことです。

このような長い旅の途中、鳥たちは湿地でしばらく休んで体力を回復させながら移動していきます(藤前干潟もそのうちの1つです)。渡り鳥が生活するためには、そのルート上のすべての湿地が必要なので、国際的な協力によってそれらを保全するようにしたのがラムサール条約です。

※英語版もあります。